平成17年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ハタハタ

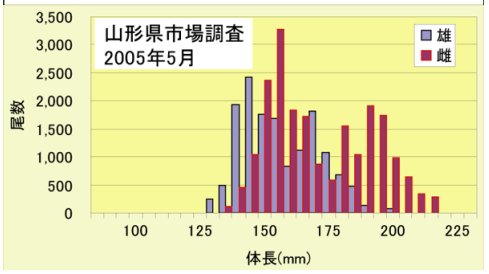
学名　*Arctoscopus japonicus*

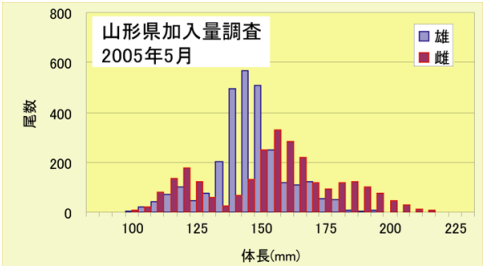
系群名　日本海北部系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特性

寿命:　5歳
成熟開始年齢:　1歳
産卵期・産卵場:　12月の極短い一時期、沿岸の藻場、秋田県での産卵が多い
索餌期・索餌場:　未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
食性:　端脚類、オキアミ類、魚類
捕食者:　大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明



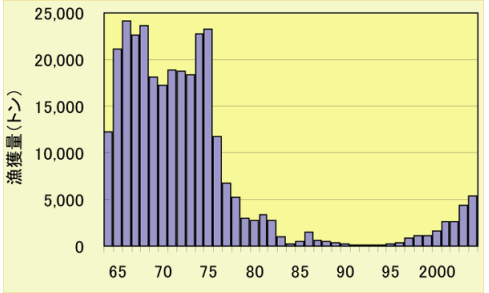


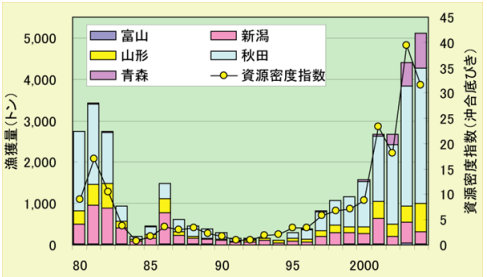
漁業の特徴

日本海北部のハタハタは秋田県での漁獲が多く、産卵・接岸期を対象とした定置網と刺網による漁獲割合が大きい（沿岸漁業）。また、ほぼ全域において小型底びき網や沖合底びき網によって漁獲される。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、1965～1975年には20,000トン前後の高い水準にあったが、1976年以降激減し、1991年には158トンにまで落ち込むという劇的な変化を示した。秋田県は3年間の採捕禁止（1992～1995年）を実施し、その後も青森、秋田、山形、新潟の4県では、自主的・公的な漁獲規制を実施している。このような措置の下で、近年、漁獲量は増加傾向にある。2004年の前半は底びき網及び沿岸漁による漁獲が多く、合計5,400トンを記録した。





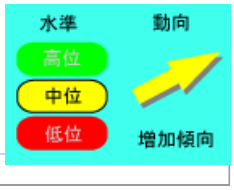
資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し、1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、秋田、山形、新潟の3県の市場調査及び加入量調査における体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。

*資源密度指数：10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE（漁獲重量(kg)／ひき網回数）を一定期間（年または月）、ある海域内（中海区または小海区）で集計した値を有漁漁区数で除したもの。

資源状態

日本海北部のハタハタ資源は、近年の全般的な漁獲動向、各年級の豊度等から、1990年代前半に比べて明らかな回復を示している。2005年現在、2003年級（満2歳）が主体であり、さらに大型の高齢魚（2001年級の4歳もある程度含まれるか）を加えた資源が存在すると思われる。資源状態としては、水準は中位、動向は増加傾向にあると判断した。しかし、評価対象年である2006年には、2004年級が少ないことから漁獲の主体が例年のような2歳魚ではなく、引き続き2003年級（3歳）になると思われる。2005年級の加入は未知であるため、これまでの増加傾向が続くとは言えない。



管理方策

ハタハタの日本海北部資源は、近年、奇数年生まれの高水準の年級に支えられて増加傾向にあると思われる。しかし、2006年時には通常、漁獲の主体となる2歳魚（2004年級）の豊度が低いと考えられることから、大型魚（3歳魚が中心）にかかる漁獲努力を現状より抑えて資源を保全することが必要である。ABClimitは基準となる過去の漁獲量（2003～2004年の平均値）に係数0.9を乗じた。ABCtargetは、資源状態が1～2年の間に大きく変動する過去の傾向や今後の加入状況についての不確実要素を考慮し、ABClimitの0.8（標準値）倍とした。また、2005年級の加入動向を注意深く観察する必要がある。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	4,400トン	0.9Cave2-yr	-	-
ABCtarget	3,500トン	0.8・0.9Cave2-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量は、漁獲に関する自主的・公的規制のもとで増加している
- 2004年の漁獲量は、底びき網と年末の沿岸漁ともに多く、5,400トンとなった
- 2003年級の豊度が高く、2006年の漁獲の主体となる
- 今年加入する2004年級の水準は低いと推定される

管理方策のまとめ

- 漁獲の主体となる大型魚にかかる漁獲努力を抑えて資源を保全
- 最近2年間の平均漁獲量をもとにABCを算定
- 2005年生まれ群の加入状況を把握することが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。